

任期付研究員（テニュアトラック制）募集要項

国立研究開発法人水産研究・教育機構では標記職員の採用を予定しております。

任期付研究員の採用は、緊急な行政的・社会的ニーズに対応して短期間に集中して問題解決に取り組むことが必要となった場合に、独立して研究する能力を備え、高い資質を有する研究者を問題の解決に当たらせるとともに次世代の創造的な研究を推進する能力を持つ研究者として育成する観点から行うものであり、今回の募集内容、応募条件、選考方法等は下記のとおりです。

1. 募集研究課題、採用予定場所

別表とおり

2. 採用人数

1名

3. 任 期

採用日から4年間（令和7年4月1日～令和11年3月31日）

4. 採用予定日

令和7年4月1日（採用日については応相談）

5. 応募条件等

- (1) 募集研究課題に関連する「博士」の学位を有する方、又は取得見込みの方（採用日前に取得可能な方に限る）
- (2) 任期付研究員として研究課題を担当するために必要な知識、能力又は技術を有する方
- (3) 日本国籍を有していない場合は、採用予定日までに日本国内で就労するために必要な在留資格を取得すること

6. 応募手続き

(1) 応募書類

① 履歴書

（JREC-IN Portal 様式に、6ヶ月以内に撮影した写真を貼付すること。連絡のための電話番号・**E-mailアドレス及び賞罰の有無を必ず記載**すること。取得した学位・課題・取得年月日を記載すること。履歴書に記載する氏名は戸籍上の氏名としてください。）

② 最終学歴の卒業（又は見込み）証明書※

③ 最終学歴の成績証明書※

④ 学位授与（又は見込み）証明書※

（学位授与証明書が存在せず、②に学位の記載がある場合は、②のみのご提出で問題ございません。）

⑤ 研究業績リスト

（別紙様式に従って作成すること。様式は当機構ホームページ（採用情報）に掲載。）

⑥ これまで行ってきた研究の概要（1,200字程度）

（記載例を参照の上、作成すること。記載例は当機構ホームページ（採用情報）に掲載。）

※②、③、④の書類の原本は、面接試験前に原本をご郵送下さい。（送付先は書類選考通過者に別途指示します。）

(2) 応募方法

①JREC-IN Portal - 国立研究開発法人 科学技術振興機構のホームページ (<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>) にアクセスし、新規登録を行ってください。（既に登録済みの方は、新規登録不要です。）

※JREC-IN Portal は、研究者・研究支援者・技術者等の研究人材のキャリア形成・能力開発を情報面から支援する研究人材のためのポータルサイトです。

②JREC-IN Portal に公開している当機構の求人情報にアクセスし、電子応募欄の「Web 応募」から、上記 4. 応募手続き (1) 応募書類①は JREC-IN Portal 様式で作成し、応募書類②～⑥を、必ず一つの PDF ファイルにまとめて、令和 7 年 2 月 13 日（木）12:00 までにご提出ください。

※JREC-IN Portal Web 応募方法（電子応募方法）の詳細および応募に当たっての注意事項が下記 URL に掲載されておりますので、応募前に必ずご確認ください。

https://jrecin.jst.go.jp/html/app/seek/dsc_utilization_j.html

7. 選考方法

(1) 書類選考

提出のあった応募書類により選考を行い、選考結果に関する通知文書を令和 7 年 2 月中旬にメール送付する予定です。

なお、書類選考試験通過者には、面接試験までに、お手持ちのスマートフォン、またはご自宅のパソコン等から Web 上にて性格検査を受検していただきます。（詳細については、別途受験者へ通知します。）性格検査の結果は面接試験の参考とし、可否には影響しません。

(2) 面接試験

①実施日時及び試験内容

日 時：令和 7 年 2 月 26 日（水）（予定）

※試験時間等の詳細については、書類選考通過者に別途連絡いたします。

内 容：プレゼンテーション及び個別面接（計 30 分程度）

（Teams を用いた Web 面接を実施予定）

プレゼンテーションは、応募者がこれまで行ってきた研究の概要と応募研究課題に対する抱負について、15 分程度行って頂きます。（Teams 上で PowerPoint もしくは PDF の発表者ツールを用いたプレゼンテーションを行って頂きます。）プレゼンテーション終了後に面接試験（個別面接）を実施します。

②試験結果の通知

結果通知文書を面接試験実施後、速やかにメール送付する予定です。

(3) 面接試験（最終面接）

①実施日時及び試験内容

日 時：令和 7 年 3 月上旬～中旬

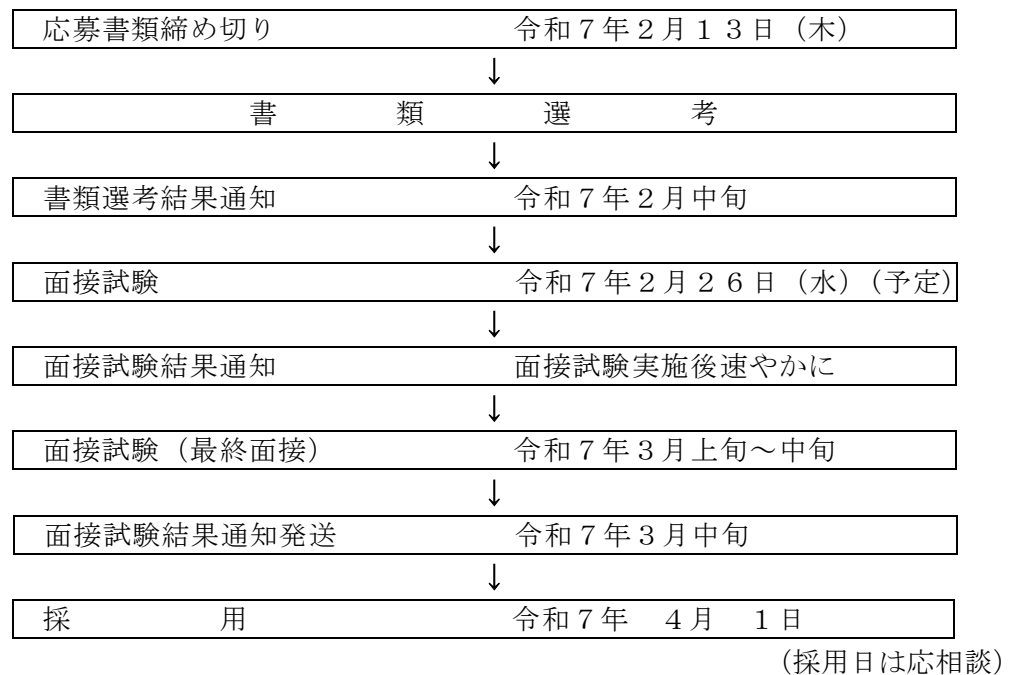
※試験時間等の詳細については、面接試験通過者に別途連絡いたします。

内 容：個別面接（Teams を用いた Web 面接を実施予定）（10 分程度）

②試験結果の通知

結果通知文書を令和 7 年 3 月中旬に発送する予定です。

参考：採用までのスケジュール



8. 身分・処遇等

- (1) 雇用形態 任期の定めのある職員（任期：採用日から4年間）
- (2) 勤務時間 1日7時間45分
- (3) 給与 国立研究開発法人水産研究・教育機構任期付研究員及び特定任期付職員給与規程に基づき決定（詳細はお問い合わせ下さい）

初任給の目安（俸給月額）
博士課程修了者（第2号任期付研究員 1号俸） 346,000円
※上記の額は新卒者の初任給であり、既卒者は職歴等によりこの額に上乗せされる場合があります。

- (4) 諸手当 通勤手当、地域手当（支給対象の勤務地に勤務する場合、給与額の2%～16%） 他
- (5) 賞与 年2回（6月、12月 ※令和6年度実績3.45ヶ月分）
- (6) 休日休暇 週休日（土・日）、祝日、年末年始、年次有給休暇、病気休暇、特別休暇（夏季・結婚・出産・忌引等）、介護休業、育児休業 他
- (7) 保険 健康保険（農林水産省共済組合）、厚生年金、雇用保険、労災保険
- (8) 試用期間 6ヶ月
- (9) その他 当機構は非公務員型の独立行政法人であり、職員の身分は公務員ではありません。刑法その他の罰則の適用については、法令により公務に従事する職員と見なされます。

9. その他

- (1) 採用後に希望者にはテニユア審査を実施し、テニユア獲得の場合はパーマネントとして採用します。
- (2) 応募・受験に関する一切の費用は、応募者の負担となります。
- (3) 応募書類は返却しませんのでご了承ください。なお、応募書類に記載された個人情報を選考の目的以外には使用しません。
- (4) 当機構は、男女共同参画に向けて、出産・子育てに関する環境整備に取り組んでおり、女性の応募を歓迎しています。

10. 応募に関する問合せ先

国立研究開発法人水産研究・教育機構

総務部 人事課

Mail : fra_saiyou@fra.go.jp

(※職員がテレワーク（在宅勤務）を行っている場合がございます。採用に関するお問い合わせはメールにてお願いいたします。)

※研究課題に関する問合せは、別表に記載の問合せ先をお願いします。

研 究 業 績 リ ス ト (記 載 例)

(-)

氏名

種類	題名	発行/発表年月，発行掲載誌名/図書名/発表場所，巻号，頁，（doi番号(オンラインジャーナルの場合記載)）	著者・発表者
(学会（誌）発表) 論文発表	〇〇の研究	平成30年，〇〇学会誌，10巻，100-110	甲，乙
(学会（誌）発表) 論文発表	□□の研究	平成25年，〇〇学会誌，6巻，50-61	乙，甲
(学会（誌）発表) 口頭発表	△△について	平成27年，〇〇学会大会，2pp	甲，乙
(学会（誌）発表) 口頭発表	××について	平成28年，〇〇学会大会，1pp	乙，甲
			合計 学会（誌）発表 4 (2) うち論文発表 2 (1) 公刊図書発表 0 (0) 機関誌発表 0 (0) その他 0 (0) （ ）内トップネーム

これまで行ってきた研究の概要（記載例）

氏名：水 研 花 子

1. 研究歴

平成 21 年 4 月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻	博士前期課程
～平成 23 年 3 月	(〇〇研究室 農林二郎教授)	
平成 23 年 4 月	〇〇大学大学院〇〇研究科〇〇専攻	博士後期課程
～平成 26 年 3 月	(〇〇研究室 農林二郎教授)	
平成 26 年 4 月	〇〇大学〇〇研究センター	JSPS 特別研究員
～現 在	(〇〇グループ 水産三郎助教授)	

（大学院から現在までの研究歴とそれぞれのポジションにおける指導者名あるいは主たる共同研究者を記載する。）

2. これまで行ってきた研究の概要（1, 200 字程度）

（上記の研究歴における研究の概要について、1, 200 字程度で記載する。）

(別紙)任期付研究員 募集課題一覧

No.	採用場所	採用人数	研究課題名
1	水産技術研究所 養殖部門 生産技術部 技術開発第5グループ（八重山庁舎） 沖縄県石垣市桴海大田148	1	「ハタ類における増肉係数改善技術開発に関する基礎的研究」 (1) 個体差を考慮した増肉係数改善技術評価法の開発 (2) 環境操作による増肉係数改善メカニズムの解明 (3) 環境操作による増肉係数改善技術の開発

別表

採用場所	水産技術研究所 養殖部門 生産技術部 技術開発第5グループ（八重山庁舎） 沖縄県石垣市桴海大田148
研究課題名	「ハタ類における増肉係数改善技術開発に関する基礎的研究」 (1) 個体差を考慮した増肉係数改善技術評価法の開発 (2) 環境操作による増肉係数改善メカニズムの解明 (3) 環境操作による増肉係数改善技術の開発
研究業務内容	現代において、世界人口増加と環境変動による食料供給の課題がますます深刻化している。中国や東南アジアの経済発展、欧米諸国の健康志向等により、世界的に水産物への需要も増大しているが、天然資源に依存した漁業生産量は横ばいまたは減少しており、食料供給に対する「養殖」の果たす役割がますます重要になっている。しかし、現状の養殖業には、1匹の養殖魚を生産するためにその重量の何倍にも及ぶ魚を餌として利用するなど、持続可能性に大きな問題がある。また、養殖に必要な餌や飼育環境には限りがあるため、日本のような多魚種小規模養殖に適した、餌を効率的に利用するための新たな技術開発が強く求められている。 世界的に見て、ハタ類は中国や東南アジアで非常に経済的価値の高い魚種であり、その需要に応じて2000年代から養殖生産量が急増している。日本国内でも、ハタ類はマダイやブリと比較して単価が高いことから、養殖業成長産業化総合戦略（農林水産省、令和3年7月）で戦略的養殖品目に指定されており、2030年までに新魚種（ハタ類等）の生産量を1～2万トンに引き上げる目標が掲げられている。しかしながら、養殖生産コストの大部分を占める餌料代の高騰が大きな課題の1つとなっている。こうした背景から、ハタ類においても増肉係数改善技術開発に関する基盤研究が強く求められている。 そこで本研究では、ハタ類における効果的な増肉係数改善技術の開発を目指し、ゲノム情報が高度に整備されているスジアラをモデルとして以下の研究を実施する。①遺伝的背景や個体特性を考慮に入れた増肉係数改善技術の評価手法を開発する。また、②様々な環境要因（光周期、水温、塩分濃度など）を操作し、それらが魚類の増肉係数に与える影響を詳細に分析する。この過程で、網羅的遺伝子発現解析などの手法を用いて、増肉係数改善のメカニズムを分子レベルで解明する。さらに、③得られた知見を基に、最適な環境条件を組み合わせた増肉係数改善技術を開発する。これら研究を通じて、ハタ類における効率的な養殖技術の開発と持続可能な水産業の実現に貢献し、マダイやブリに続く主要な養殖魚種として確立することが期待される。 このことから以下の業務を行う。 (1) 個体差を考慮した増肉係数改善技術評価法の開発 (2) 環境操作による増肉係数改善メカニズムの解明 (3) 環境操作による増肉係数改善技術の開発
研究業務内容に関する問合せ先	水産技術研究所 養殖部門 生産技術部長 崎山 一孝 TEL:0772-25-1306